

# 情報処理安全確保支援士特定講習 講習情報

国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)

## 実践サイバー演習 RPCI (リプシィ)

実施機関名	国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)		
講習名	実践サイバー演習 RPCI (リプシィ)		
特定講習番号	21-008-023		
講習形態	集合形式	定員 (1回あたり)	48名
受講日数	1日間	受講時間	8.6時間
受講料	88,000 (円/税込み)		

対象分野 <ITSS+ (セキュリティ領域) >	主な分野	セキュリティ監視・運用	関連分野	脆弱性診断・ペネトレーションテスト
講習内容	どんなにセキュリティ対策を行っても、攻撃者により最終防衛ラインは突破され、インシデントは起こるもの。 本演習では、仮想組織のネットワークをシミュレートした演習環境を舞台に、受講者のみなさんはCSIRTの一員として参加し、実機を用いて攻撃者からの攻撃に対処し、インシデントハンドリングのプロシーチャーを1から10まで学ぶことができる。また、平時に必要なセキュリティ対策や備えについても学ぶので、本講習で身につけるインシデントハンドリングコンピテンシーは、今後、受講者のみなさんの業務のあらゆる側面に大いに役立つものとなるだろう。			
具体的な到達目標	・検知・連絡受付から再発防止、事後対応に至るまで、インシデントハンドリング「NIST SP 800-61」の一連の流れを理解し、実施できる。 ・インシデント報告書タイムラインの重要性および必要項目を理解し、インシデント報告書作成を実施できる。 ・情報処理安全確保支援士倫理原則、「誠実性の原則」、「公正性の原則」、「能力及び正当な注意の原則」、「守秘義務の原則」、「Due Careの原則」について理解し、倫理原則を基に行動選択を実施できる。			
修得できるスキル	・Wiresharkを利用した特定のプロトコルのパケット解析 ・Nmapを利用したネットワークアクセスコントロールの適正動作確認 ・Hydraを利用した、自らが管理するネットワーク機器への侵入試験 ・ネットワーク機器への侵入軽減に対する対策説明能力 ・CISOに対する優先度をつけた再発防止策の提案			
講習の理解・習得のために推奨される実務経験	・CISO、CSIRT管理者、CSIRTメンバー、インシデントが発生した際の対応に携わる方 ・情報システム管理、運用に携わる方 ・情報システムの調達・企画・開発に携わる方			
講習の理解・習得のために推奨される知識・技術	情報処理安全確保支援士が有するサイバーセキュリティに関する知識およびコンピューターとネットワークに関する知識			
技術・知識の到達度の把握・測定方法	集合形式の講習を通して学んだ内容を確認するため、講習の最後に実機操作を含むテストを実施して到達度測定を行う。			
修了認定の判断基準	以下の条件をすべて満たした上で、演習受講状況により総合的に判断する。 ・確認テストを受講すること ・確認テストの時間を除いた演習時間(※)のうち9割以上出席すること (※ 昼休み、及び講師が指定する休憩時間を除く)			
修了認定基準に満たない受講者への措置	措置無し。			
受講者に対するサポート体制	利用するツールの操作方法は、事前オンライン学習で扱うとともに、講師だけでなくチューターも操作方法等のサポートを実施する。			
講習実施施設所在地	東京都中央区日本橋 他			
ホームページ	<a href="https://rpci.nict.go.jp/">https://rpci.nict.go.jp/</a>			